

中野 陽（関西学院大学日本語教育センター）

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. クラス概要

上級1歩手前の中上級の学習者を対象としている。同レベル2クラス同時開講で、1週間に2コマ（各コマ90分）の授業時間数である。「聞く」「話す」ことが目標であるが、「聞く」素材はテレビ放送局のwebニュースである。「話す」ことには発表とディスカッションが含まれる。「公の場にふさわしい表現を使って意見交換ができる」ことも目標であり、したがって、丁寧体で話すことを要求した。

## 2. 授業内容

議論の素材としてニュースの視聴を行った。ニュースのテーマは「裁判」「事件」「不祥事」に絞った。授業においては、ニュース視聴とその内容や表現の確認の後、ディスカッションを行った。また、「裁判」「事件」「不祥事」ニュースの頻出表現とディスカッション表現の導入と練習を行った。なお、ニュースは主にFNNニュースサイトの最近1か月以内のニュースから選択した。

発表を一人1回課した。自国の社会問題について概要、追加情報、地震の立場、クラスでディスカッションしたいことを述べるように指示した。

パネルディスカッションも行った。5B合同クラスならびにLA参加で2回、実施した。テーマはそれまでに視聴したニュースならびに発表の中から学生が選び決定した。採用されたテーマは「野良猫の不審死」「性暴力」「いじめ自殺」「安楽死」である。登壇者と聴衆に分かれて議論し、聴衆は登壇者の議論を評価・コメントした。

## 3. 成果と今後の課題

学生満足度については12名中11名が満足感を持ってくれた（1名は「どちらともいえない」）。マイナスコメントは「クイズが少ない」だけで、「議論することが役に立った」「視野が広がった」等肯定的コメントであった。ディスカッションの素材としてニュースを位置づけ、視聴するニュースを学生に選定させたことにより、スムーズな授業の流れを作ることができ、また学生のモチベーション維持にも効果的だった。意見発表、ディスカッション、定期テストを同一テーマで行ったことは今回は効果的であったが、今後の学生全てに当てはまるかは検討する必要がある。